

刈り遅れに注意しましょう！（9月）

平均気温の推移（熊谷）



8月の平均気温は統計開始以降最も高くなりました。
高温の影響により登熟が進み、収穫期が前進化することが予想されます。
刈り遅れると「胴割れ米」や「茶米」が増加し、米の品質低下につながります。
あらかじめ収穫時期のめやすを把握し刈取作業に備えましょう。

適期収穫のポイント

1 登熟積算気温をめやすに

出穂期から登熟期間中の毎日の平均気温を合計した数値を「登熟積算気温(°C)」と呼び、基準に到達したら収穫適期となります。品種ごとに数値が異なり、収穫適期には幅があります。高温年は刈り遅れると品質低下が進みます。なるべく収穫適期の前半に刈取りましょう。

品 種 (登熟積算気温の基準値)	出穂期	収穫適期のめやす			
キヌヒカリ (積算気温950～1,200°C)	8月15日	9月17日	～	9月27日	頃
	8月20日	9月23日	～	10月4日	頃
	8月25日	9月30日	～	10月12日	頃
彩のきずな (積算気温900～1,100°C)	8月15日	9月15日	～	9月23日	頃
	8月20日	9月21日	～	9月29日	頃
	8月25日	9月27日	～	10月7日	頃
彩のかがやき (積算気温1,010～1,250°C)	8月15日	9月19日	～	9月29日	頃
	8月20日	9月25日	～	10月6日	頃
	8月25日	10月2日	～	10月14日	頃

※収穫適期のめやす：9月11日現在の熊谷地方気象台の気象データ（予測日前日までの観測データ、予測日以降の予測データ）を基に農技研開発の「農作物発育予測プログラム」を用いて算出したものであり、今後の気象状況により前後することがあります。

今後も暑さが続くと、予測より収穫適期が早まることも想定されます。

2 高温年は外観よりも登熟がすすむ

高温年はもみの色が緑色でも、中の玄米は登熟が進んでいることがあるため、出穂後日数やもみ水分なども考慮して総合的に収穫時期を判断しましょう。

3 もみ水分25%で収穫を開始

もみ水分が25%を下回ったら刈取を始めましょう。

本年のもみ水分等の状況

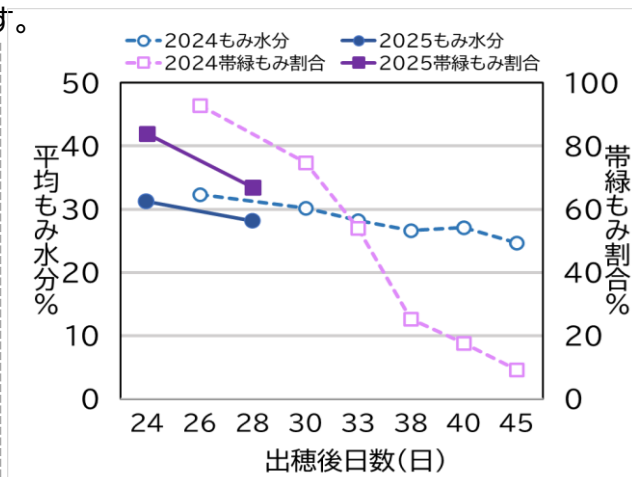
玉井試験場のもみ水分の測定結果は以下のとおりです。

「彩のかがやき」(5月20日植)の測定結果

5月20日植 彩のかがやき	測定日	出穂後日数 (日)	積算気温 (℃)	帯緑もみ 割合(%)	もみ水分 (%)
8月11日 出穂	9月4日	24	699	84	31.2
	9月8日	28	806	67	28.1

昨年に比べやや低く推移しています。天候が安定していれば乾燥は一定の速度で進みますので、収穫適期の予測の参考にしてください。

※もみ水分等の測定結果については、
農技研HP（農作物の生育状況）で
提供しています。
右の二次元コードからご覧になれます



【参考】もみ水分、帯緑もみ割合の推移
(5月20日植彩のかがやき 2024年、2025年)

収穫後、ほ場をすみやかに耕うんしましょう！

イネカメムシは越冬に備えて養分を蓄えるため、9月～10月は吸汁活動が盛んになります。

収穫後の稲株から発生する穂(ひこばえ)は栄養価の高いエサとなります。

稲株を放置すると、イネカメムシにエサを供給することとなり、来年の多発生につながる危険性が高くなります。収穫後はすみやかに耕うんして、稲株をすき込みましょう。

【早期すき込みの効果】

- ①気温が比較的高いうちにすき込むことで有機物の分解が促進され、翌年のガス害の低減が期待できます。
- ②ヒメトビウンカ、ミナミアオカメムシ等の害虫のすみかをなくすことで、来年の発生を抑制します。



ひこばえを吸汁するイネカメムシ
(写真:病害虫防除所)

農作業時の熱中症にご注意ください